

共に学び共に歩む同朋和敬の理念を活かしつつ 時代を超える教育で人間を育てる

同朋大学(名古屋市中村区)はルーツを江戸時代の関蔵長屋(一八二六年)にさかのぼり、一九二一年に真宗大谷派専門学校としてスタートした伝統校。来年度新たに文学部人文学科に現代教養専攻を設置、幅広い視野の学生育成に力を入れている。柔道、バスケットボールなどで有力選手を輩出しているスポーツ面では、女子硬式野球部や女子サッカー部も新設する。仏教の教えを高等教育に活かしつつ、現代の学生ニーズにも応える。このほど就任した松田正久学長に新たな人材育成戦略を語ってもらった。

——学長就任の所感と抱負を。

松田 学長候補者選考会議が公募、応募者の面接などオープンに選考し、理事会で決定していただきました。国立大学法人愛知教育大学の学長を経験しましたが、本学は規模が小さく、予算配分などが国立とは異なる私立大学独特の運営方法であると感じました。厳しい環境の中で、教育の質をどう

です。学生、卒業生がこうした満足度を口コミで後輩たちに伝えていってほしいですね。

——大学の現状。課題と魅力、特徴は。

松田 現在は二学部制で、社会福祉学部の社会福祉学科には社会福祉専攻と子ども学専攻があり、文学部には仏教学科と人文学科があり、人文学科は日本文学、歴史文化の各専攻に加えて、来年度には現代教養専攻が加わります。学生定員は一学年二六〇人で、全体で一〇四〇人規模。教員は四六人です。

国立大学は学長権限を強化して運営の効率化を進めてきましたが、同朋大学は一見、非効率的ではありますが、民主的で議論や手

向上させていくか、学生の要求をどう実現していくか考えていかねば、と思いました。

——学生への思いとは。

松田 昨年、本学では学生の満足度調査を初めて実施しました。この調査で分かったのは、良いところとして学生と先生の距離が近い、仲間をつくりやすいと多くの学生が感じているということ

続きに時間をかけています。いい面もありますが、時代の動きに遅れてしまうことも考えられます。

以前から大学はボトムアップとトップダウンのバランスが大事だと言ってきました。本学に限らないのかもしれませんが、「意思決定の迅速化」が課題の一つですね。

——大学の歴史、発展してきた背景を。

松田 大学は一九二一年の真宗専門学校から五〇年の東海同朋大学仏教学部開設、五九年に同朋大学に改称、六一年には早くも社会福祉学科を開設して福祉人材の育成を始めました。仏教の理念は福祉に通じるということでしょう。その後、文学部を充実して発展してきました。「同朋和敬」(どうぼ